

# 校長通信

## Morifun

2022年度が始まりました。新入生を迎えて、総勢524名でスタートを切りました。新型コロナの勢いは衰えを知らず、専門家によってはすでに第7波に突入していると言っている方もいます。相変わらず気の抜けない毎日が続いています。感染対策は一見自分のためにやっているようで、実は大切な人のためにやっているんです。一人一人の感染対策の向こうに、たくさんの人がいるということを忘れないでください。

さて、春を飛び越して夏が来たのではないかと錯覚してしまうような気温上昇があれば、また一気に花冷えのような寒さがあつたりと寒暖の差が続いています。体調管理に充分気をつけましょう。桜も一気に咲きそうだ！早く散らないことを祈ります。

校長通信の第1号です。簡単に自己紹介をします。生まれも育ちも盛岡です(山形県とは何も関係がありません)。千葉で5年、岩手で33年公立高校の教員をやり、その後、縁あって盛岡大学に務めています。現在は大学と兼務で校長職を仰せつかっています。大学では英語文化学科に所属し教職(教員免許を取得するために必要な科目)を担当しています。今年度は本校から大学に25名、短大に7名入学しました。盛岡大学は素晴らしい大学です、皆さんの進路選択にもぜひ盛大を含めてください！(本校からの進学者は全員入学金が免除です。)

## <4/8 入学式挙行>

4月8日(金)、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら218名の入学生を迎えました。厳粛で心温まる時間を共有できました。入学許可の呼名では、マスク姿の一人ひとりが心のこもった大きな返事をし、一礼しました。新入生それぞれの決意を感じました。生徒会執行部、野球部、陸上部、柔道部などに協力頂きました。感謝！

### ◆校長式辞

皆さんが高校生活をスタートする2022年という年度は、新しい学習指導要領の下で新カリキュラムの学習が始まる年度です。また、民法の改正により、18歳になった時点で成人を迎えることとなります。様々な事が大きく変わる節目の年となります。そして新型コロナウイルスとの共生も3年目を迎える中、先月は東北地方で大きな地震被害がありました。世界に目を向ければウクライナでは戦争が起こり、日本海を越えてミサイルが発射されるなど、人々の想像をはるかに超えた激動の時代が訪れていると言っても過言ではありません。こんな時代だからこそ、皆さんには、何事にも問題意識を持って、積極的に問いかけていくことが求められます。学校が自分のために何をしてくれるのかを待つのではなく、自らできることは何かを考え行動してください。これからの3年間、様々な壁が皆さんを待ち受けています。その壁は簡単には克服できないものかもしれません。だからこそ、克服した時の達成感や充実感を味わえるのです。そして精神的にも体力的にも成長していくのです。さあ、今日が高校デビューの時です。どうか人と比べるのではなく、昨日の自分と比べるよう心掛けてください。そして失敗を恐れずに挑戦し続けてください。

### ◆理事長祝辞

この母校愛をばねにクラブ活動に励めばきっといい成績につながるはずです。附属高校のクラブ活動は野球部だけでなく、柔道、陸上競技、演劇部など目覚ましい活躍です。それぞれ得意分野で力を伸ばし高校生活を楽し

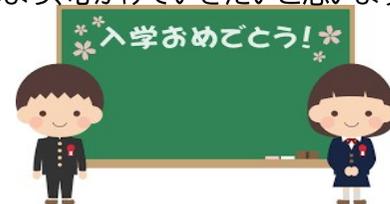
んでください。最後になりますが、細川先生の建学の精神について、「神から愛されている自分に気づくこと、同じく神から愛されている存在である他者を大切に、他者のために自己の能力を使うことが愛と奉仕の精神である」と言っています。この言葉を胸に刻んで勉学に励むよう期待し祝辞とします。

### ◆歓迎の言葉(生徒会長・中居早瀬さん)

高校3年間はあっという間に過ぎてしまいます。そこで私は皆さんに先輩としてアドバイスしたいことがあります。それは「高校での日々を何気なく過ごすのではなく、夢中になれることや目標を持って生活してほしい」ということです。目標があることで、その目標を達成させることが、自分自身を成長させることにつながるはずです。努力は必ず報われるという言葉がありますが、時にはすべてが報われないこともあるでしょう。しかしまずは自分を高めるための努力を惜しまずに何かを始めることは、皆さんの人生を変えていくスタートになるはずです。時には辛い時や迷ってしまうことがあると思います。その時はぜひ、周りの先輩たちや、先生方に気兼ねなく相談してください。みなさんも私たちと一緒に成長していきましょう。

### ◆誓いの言葉(新入生代表・小笠原綺音さん)

中学校を卒業し、気持ちを新たに、今までとは違った生活を送ることへの不安もありますが、どんな毎日を送っていくのか、という期待もあります。これからの3年間を充実した日々にしていくために、ここにいる、新たな仲間と共に、勉学はもちろん、部活動や生徒会活動にも、全力で取り組み、新たな経験を通して、多くのことを学んでいきたいと思います。私たち新入生一同は盛岡大学附属高等学校の生徒としての誇りと責任を持ち、互いに励まし、協力しあいながら、自立した高校生活を送っていけるよう、心がけていきたいと思っています。



## <4/7 始業礼拝より>

### 新約聖書 ヨハネによる福音書 11章 25節

4月になって寒さも少しずつ和らいできました。4月はキリスト教にとって大事な行事があります。イースターです、今年は4月17日になります。イエス・キリストの復活を記念してお祝いする習慣です。シンボルは卵とウサギです。卵は新しく生まれるというイメージがあります。一方ウサギはヨーロッパでは、やはり誕生と結びついていて、春にたくさん赤ちゃんを産む動物なのです。

この「復活」という言葉は分かりづらい言葉ですが、元々の言葉はギリシャ語で、「立ち上がる、起き上がる」という意味で、イエス・キリストが復活したというのは、イエス・キリストが立ち上がったという解釈もできます。ヨハネによる福音書の言葉ですが、ある人が面白い訳し方をしています。岩手県でケセン語訳聖書を記した山浦玄嗣（はるつぐ）さんという大船渡出身のお医者さんですが、彼は「この俺にア、人オ立ち上がらせるカアある」と訳しました。「復活」という言葉は原語では「立ち上がる」意味があることを踏まえ、「人を立ち上がらせる力」と表現されているのです。この訳で「復活」という言葉が少し身近なものになります。

新学期が始まり、今の社会は、国内にも国外にもいろんな問題があります。皆さんにもいろんな悩み、困っていることがあると思いますが、時にはもう立ち上がれない、とか思ってしまうこともあります。そういう私たちにあてて聖書の言葉があります。私たち一人ひとりに、もう一度立ち上がる力、復活の力が与えられているのです、と伝えてくれています。山浦さんは、東日本大震災の直後に、破壊された大船渡の地を見つめながら、この言葉がすぐに思い浮かんだということです。私たち一人ひとりはいろんな経験をしますが、それでももう一度立ち上がる力が私たちには与えられている、そのことを心に留めて、始業礼拝を一緒に捧げたいと思います。

(花巻教会牧師 鈴木道也先生)

## <令和4年度 担任紹介>

始業式の日、新年度の担任の先生方が発表になりました。下記の通りです。生徒のみなさんは、よく先生方の話を聞いて、暖かい思いやりのある、アガペー（愛）が溢れるホームルームを築きましょう。

年 組	担 任	副担任 等
1年1組	吉清水克博	熊谷 洋二 (学年長)
2組	澤田 真一	平澤 岳
3組	前川 剛大	菅原智彦
4組	右京 久理子	阿部銀蔵
5組	田高 蒔生	(松下紗矢香)
6組	ホップス純子	
2年1組	小野寺克信	佐々木香苗 (学年長)
2組	太田 浩史	佐藤一樹
3組	松崎 克哉	ジョシュア・ウィス
4組	村井 真人	見上匠吾
5組	小松 直	
3年1組	法領田康幸	伊藤 綾 (学年長)
2組	大黒 准哉	澤山和則
3組	関口 清治	伊藤泰彦
4組	柴山 宏子	泉山 誠
5組	安保奈穂子	

## <新任の先生方紹介>

新任式でもご紹介したように、4月から下記のフレッシュな先生や経験豊富な先生方にご着任いただきました。先生方のメッセージです。また、非常勤講師として稲森藤夫先生(物理)、樋口卓子先生(国語)が着任しました。

養護助教諭 松下紗矢香先生

『保健室の先生』でもいいのですが、『まつした先生』『さやか先生』と名前でも呼んでもらえると嬉しいです。校内ではグリーンの白衣を着ていることが多いです。どうぞよろしくお願いします。

課長 小田智樹さん(事務室)

「3年ぶりに戻ってきました小田智樹と申します。生まれは、北海道ですが、もう岩手県出身です。久しぶりの高校ですが、皆様とともに良い盛附を目指して頑張りたいと思います。」

書記 小野寺世里子さん(事務室)

「分からないことだらけですが、皆さんのお力になれるよう努めます。方向音痴なので、校舎内で迷子になっていたらお助けください！」

## <コロナ対応について>

年度をまたいで、運動部を中心に複数の感染者が確認されたため、4月13日から15日までの3日間休校措置をとりました。ここで改めて本校の感染症対応について、法人本部のウェルネスセンターとも連携し、教職員間での情報共有を図りました。詳しいものはHRで配布されるプリントを読んでもください。本校のホームページにもアップしています。保護者の方も是非ご一読ください。

全世界で新型コロナウイルスの感染者が5億人を超えたというニュースがありました。世界の人口は約79億人ですので、16~17人に1人は感染したことになります。何という数でしょう。数字から見れば、いつ感染してもおかしくない状況ですが、比較的軽症が多いと言われても、後遺症などを考えると、やはり感染しないことが一番だと思います。

コロナは本当にしんどいですが、相手を思いやる気持ち、大切な人を思う気持ちは逆に強くなったのかなとも感じています。まずは日々の感染対策を怠らず、免疫力を高め健康で充実した生活を送りましょう。なお、感染者は被害者です、不確かな情報をSNSなどによって拡散させたりすることのないよう、決して責めるのではなく、みんなで守る意識を持ちましょう。

*May Peace Prevail on Earth!*